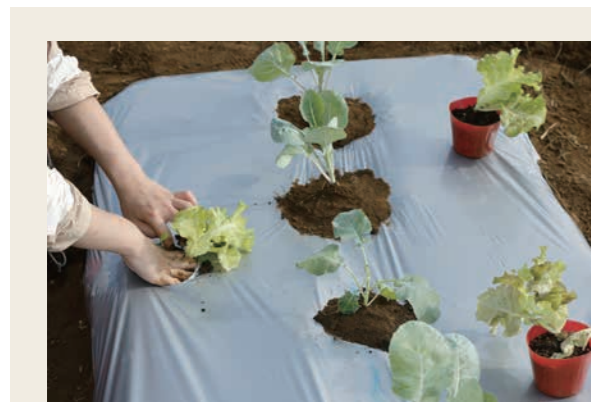


好きな場所をめくって植えつける

1 指でミシン目を押し、めくるきっかけをつくる。2 ペリペリとめくって植え穴をつくる。ミシン目加工を工夫して、従来品よりもスムーズにめくれるようになった。3 ミシン目穴の直径は6cm。ブロッコリーの苗を植えた。4 穴を1つ飛ばして利用し、株間30cmで1列に定植した。



+a

余った穴は追肥や混植に利用すると便利

フリーホールマルチはあらゆる野菜に対応。たとえば、タマネギを植える場合はすべての穴を利用します。トウモロコシなら両サイドの列に1つ飛ばして植え穴をあけてタネをまきます。さて、余った穴はコンパニオンプランツの植えつけに利用できるほか、追肥を行う場合にも役立ちます。栽培途中に株間や通路側など、株から離れた場所の穴をめくり（半分めくって、切り離さなくてもいい）、ボカシ肥料を置いたり、また、液肥を注いだりして追肥をします。



岩谷マテリアルフリーホールマルチ

ラインナップは、黒(95cm幅、135cm幅)、白黒(95cm幅)、シルバー(95cm幅)。いずれも50m巻、オープン価格。国産。生産農家から支持される高品質素材のマルチです。110ページで読者プレゼントがあります。



両裾の幅に余裕があるので張りやすい

フリーホールマルチを高さ10cmの畝に張る。マルチの裾に土を寄せて固定。両端の植え穴の位置は、畝肩から余裕をもった距離を確保できる。

- ☑ ミシン目穴が5列々ちどりに配置され、あらゆる野菜に対応
- ☑ 両裾の土寄せ部がワイドになり、高めの畝にも張りやすい

みどりのゆびの案内板

家庭菜園がもっと楽しく、もっと上手になるグッズを紹介します！

黒 白黒 シルバー

フリーホールマルチ

構成・撮影・編集部

(岩谷マテリアル)

株間15cm×条間13cmでミシン目穴がちどりに配列

今年の春に登場するフリーホールマルチ(岩谷マテリアル)を、発売に先行して編集部で利用しました。写真はその様子です。フリーホールマルチは、ミシン目加工が施されたマルチで、好きなところをめくって植え穴をつくれるのが特徴です。株間15cmの配列なので、タマネギやコマツナ、ニンジンなどに対応し、1つ飛ばしてあければ株間30cmとなりキャベツやジャガイモ、トウモロコシなどに対応。3つ飛ばせば株間60cmでトマトやキュウリなどが植えられます。

幅は95cm。黒、白黒、シルバーの3種があり、5列のミシン目穴がちどりに配列されているのがポイントです。黒マルチには13.5cm幅も

あり、こちらは7列ちどりでです。

一般的な5列の穴あきマルチ(タマネギ用など)は、株間、条間とも15cmで基盤の目状に穴があいていますが、フリーホールマルチは条間13cmでちどりに配列してあります。野菜の生育領域や根域を同等に確保しながらも、マルチの両サイドの幅に余裕があります。そのおかげで、高めの畝でも張りやすく、また、両サイドの植え穴が畝肩ギリギリにならずに困るようなこともありません。

■マルチの幅95cm、条間13cm×株間15cmのミシン目穴は5列ちどり

